

潮待ちの防波堤建築
-郷愁の町・鞆の浦水産観光施設-

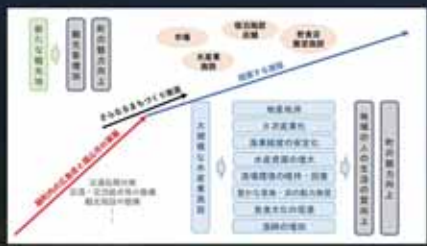
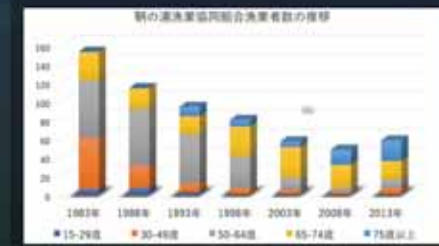
5619024 佐々木社



広島県福山市鞆町は、潮待ちの港として江戸時代に栄えた町である。
近年、鞆町の人口減少・高齢化、後継者不足により漁師人口は10分の1となってしまう。
現在、鞆町に大規模の水産業施設はない。そこで、鞆町平地区の防波堤及び玉津島を舞台とする、
これからの鞆町における水産業の促進を目的とする大規模の水産観光施設を提案する。

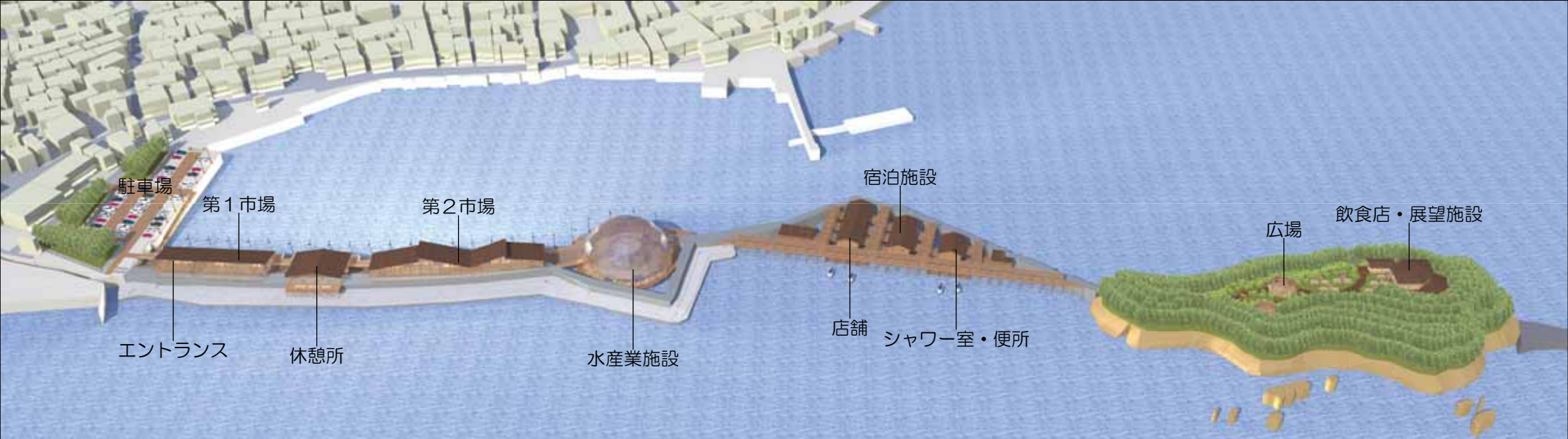


菟町の水産業における新たな拠点となる規模の水産業施設を計画する。菟町にない大規模の水産業施設を建てることで、水産業衰退を解決する基盤となる。菟町で実施又は予定されているまちづくり促進の計画に山側トンネル開通計画と原地区に掘削土砂を用いた埋め立てによる港の形成がある。原港では主に観光渡船等の観光を目的とするエリアとして計画されている。漁業としては、平港と菟港で役割を分担でき船の動線が幅広くなる。そして、それぞれの港に拠点となる施設を計画されているが、大規模な市場等の水産業施設ではなく菟港には停泊用の桟橋、平港には広場兼避難場所である。また、平地区では山側から降りるアクセス市道を計画されており、これにより平港へのアクセスも向上する。



玉津島は菟町全域を見渡すことができる景観の良さがあるが整備されておらず危険なため現在は立ち入り禁止となっている。この玉津島に繋がっている防波堤で平港は形成されている。平港は菟町の漁師人口減少の影響で漁船の数もわずかになっており、港としての利用が少なくなっている。今後、平地区のアクセス市道の計画により平港の利用が多くなると考える。しかし現在、平地区で計画されている施設は地域のふれあいの場、避難場所を目的としている。近辺に住宅街があることと菟町の街並みの景観の問題があり、大規模水産業関連の施設が建てにくく計画もないのが現状である。そこで、海に面し、住宅街から離れた位置にある長い防波堤を利用する海上建築をすることで住宅街の街並みや住民への悪影響が少ないと考える。また、海に多く面している場所を計画敷地とすることは水産業の水揚げや仕分け、加工等の工程をやりやすくなると思う。

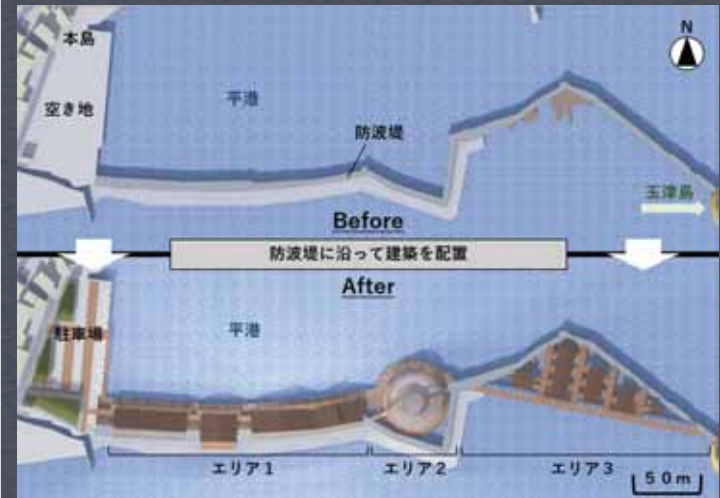
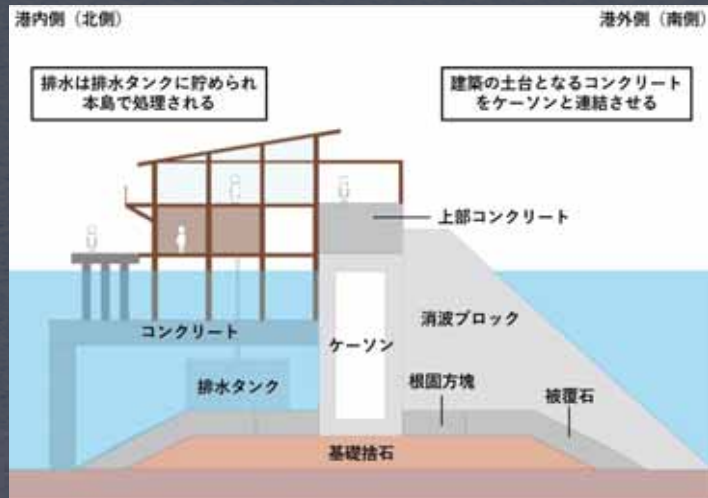
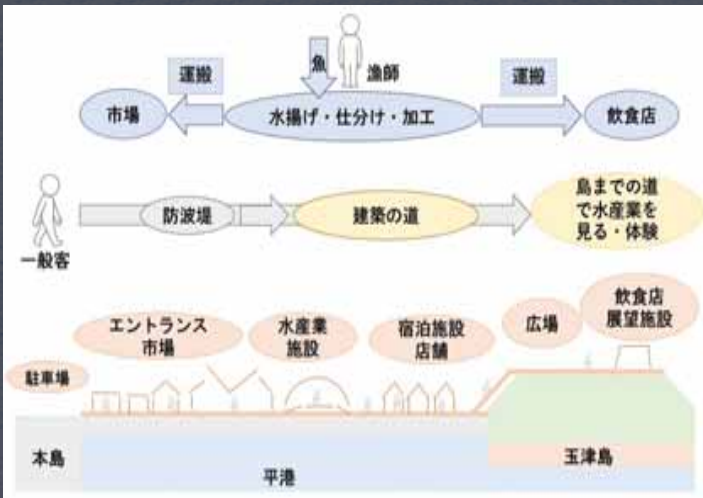




防波堤に繋がる本島の空き地を駐車場とし、平地区に造られるアクセス市道からはいりやすくする。近くに住宅街があり、一般客は市場への買物の利用が多いと考え、本島側にエントランス(案内所)、市場、休憩場を設ける。水揚げから市場で売りに出される、または飲食店で提供までの一連の流れにおいて運搬等を漁師が行いやすくなるように、水産業施設(水揚げ施設、仕分け施設、加工施設)を防波堤中央部に設ける。防波堤玉津島側には、漁師体験をする方の宿泊施設と現状のこのエリアの釣りスポットとしての活用を残すために釣具等の店舗を設ける。玉津島には、景観の良さを生かし、飲食店と展望施設を設ける。

既存の防波堤の構造を利用した木造の海上建築を行う。木造を海上建築で行う場合の様々な問題点を考慮し、環境面や安全面に配慮した建築を行う。水深に柱の高さを合わせると建築を支えられない可能性がある。そこで、防波堤のケーソンと連結させたコンクリートを水面から離れすぎない位置に配置し土台とする。水中に排水タンクを置き、本島まで送り込めるようにすることで海に与える悪影響を軽減する。

本島から玉津島までの防波堤の道を建築化することで島との繋がりや海との繋がりを具現化させる。既存の防波堤を残し、防波堤に沿って建築物を配置することで、防波堤と建築物の関係性を高める。不規則な形の防波堤を生かし、空間を3エリアに分ける。



エントランス・市場・休憩場(エリア1)

既存の防波堤に沿って港側に建築を形成。ガラスを使い、壁をできるだけ取り除き柱で構成することにより軽やかさを生み出すだけでなく、長い防波堤の奥行を感じることができる。

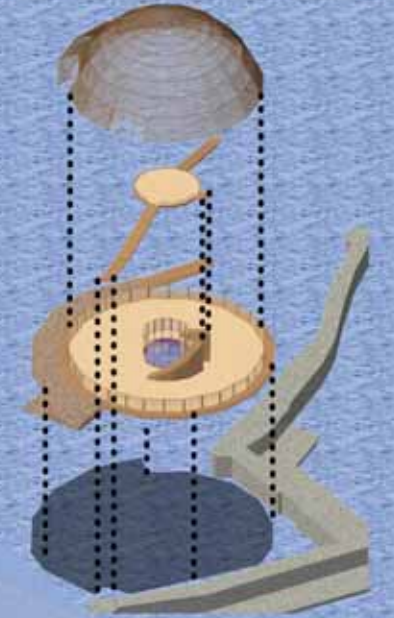
建築の間から船着き場におりることができ、港としての利用がやりやすくなる。



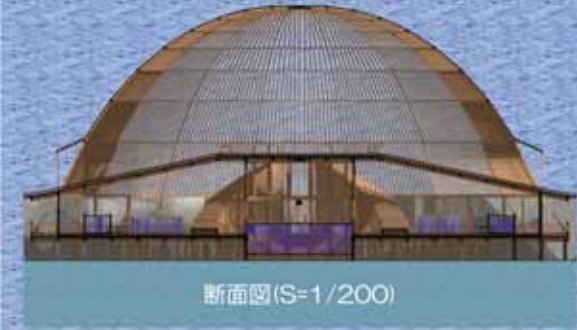
北側立面図(S=1/200)

水産業施設(エリア2)

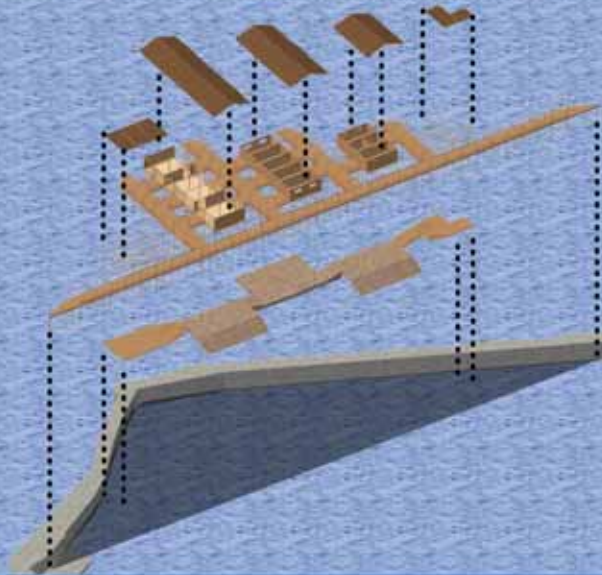
水産業施設は計画におけるメインの施設であり、
水産業の一連の流れをやりやすくなるように中央に配置している。
その防波堤中央部には既存の防波堤によって港側に入り江のような空間ができています。
そこに木造ドームで水に浮かんでいるようなフォルムの外観をつくりだしている。
屋根のつけず柱とガラスで構成することで光が入って明るく広い空間で
解放感を得られ、漁師がのびのびと作業することができる。また、漁師体験をする場所が確保できる。
中央の生け簀の上部に地上階があり、中央以外は吹き抜けと
なっているので一般客は漁師の作業を上からけんがくすることができる。



断面図(S=1/200)



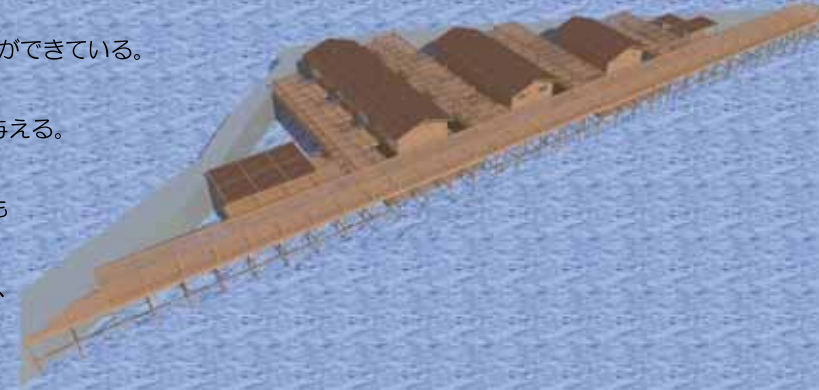
宿泊施設・店舗(エリア3)



防波堤玉津島側、既存の防波堤において港の反対側に入り江のような空間ができています。

不規則な防波堤の不均衡、流動性、自然感に対し、規則的に並んだ建築をすることで安心感、美しさ等のイメージを与える。

南側の海は港がある北側と比べ波の動きが大きい。そのため、海へと続く雁木を配置することで満潮のときでもボートやシーカヤック等の乗り降りがしやすくなる。また、満潮かどうかのわかりやすくするために満潮時に沈み、通常時に通行できる空間を配置している。



エリア3高層立面図(S=1/200)

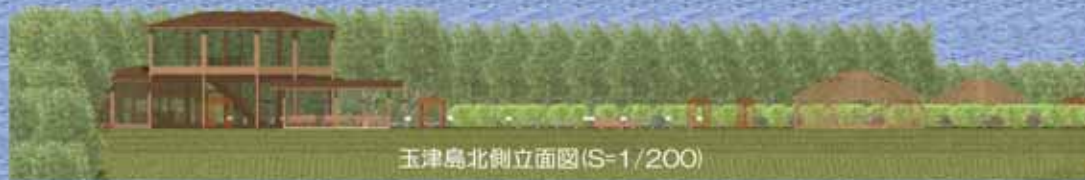


断面図面図(S=1/200)

玉津島



玉津島は鞆町全域を一望できる景観の良さがある。
これは、北側に鞆町の観光地の常夜灯がある鞆港が一望できる。
そして、今回の計画の平港も一望できる。
そのため、飲食店と展望施設を島の西側に配置。
北側と東側には開けた広場を配置する。
これにより、昔の港である鞆港と今回の計画で造られる
今の港である平港を同時にみることができる。
玉津島を時代の変化をみることができる場所にした。
防波堤から玉津島の登頂に上がる階段や広場、
北側と西側の景観確保のためのエリア以外の自然を残すことで
自然に囲まれた空間を生み出しリラクゼーション効果を得ることができる。



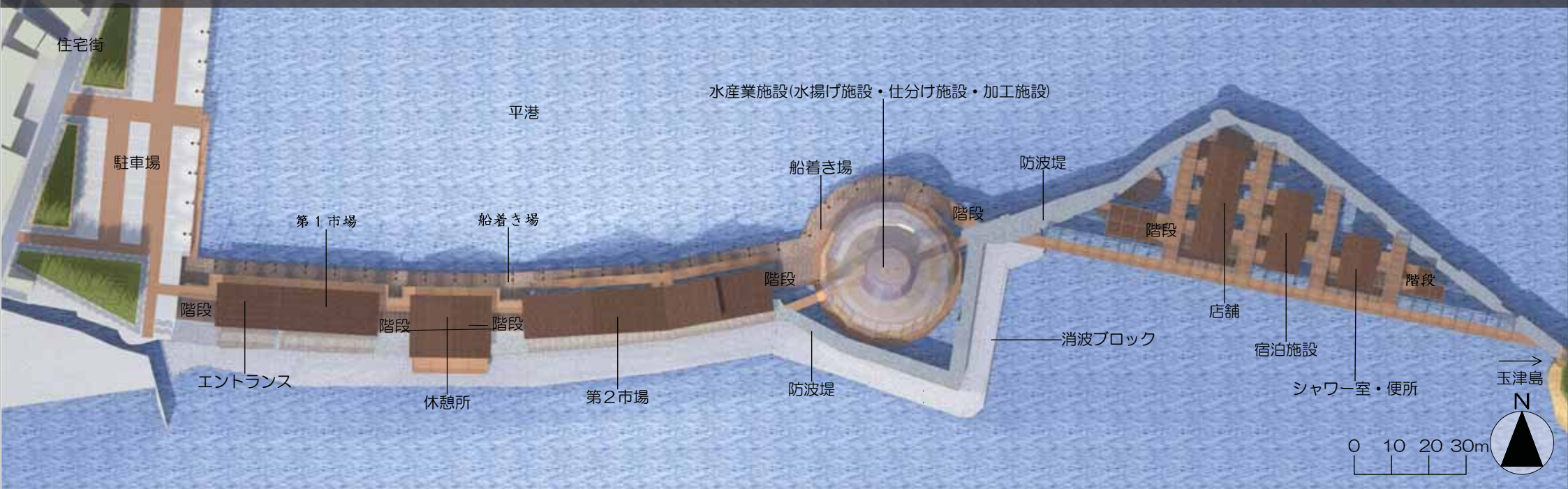
玉津島北側立面図(S=1/200)



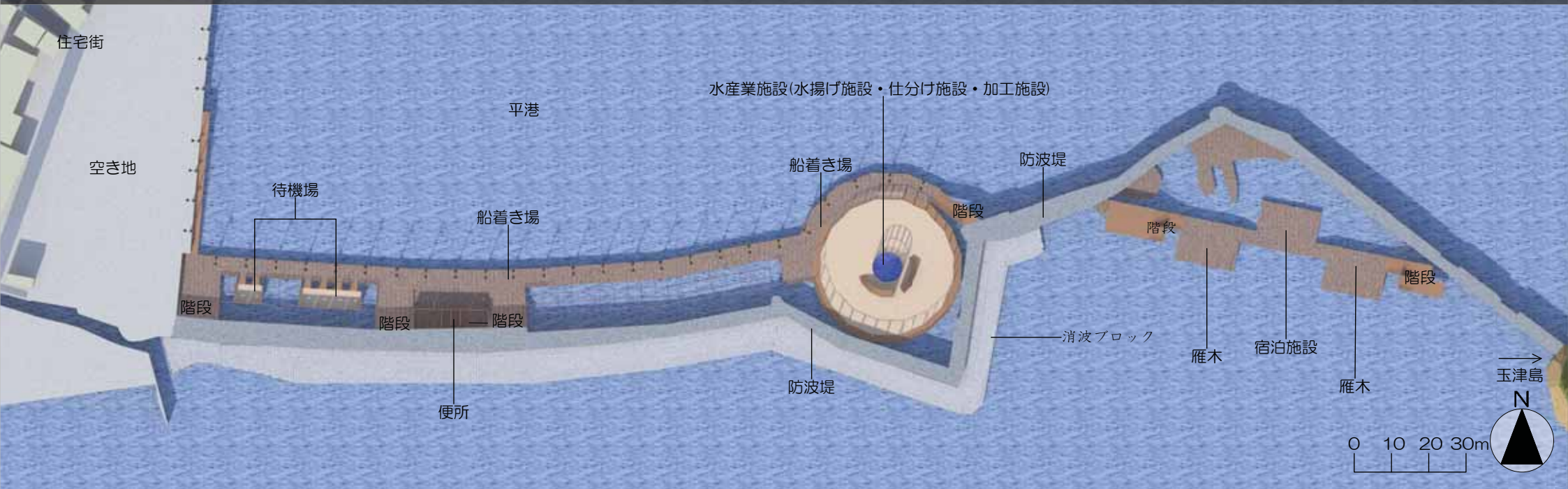
CURRENT (S=1/500)



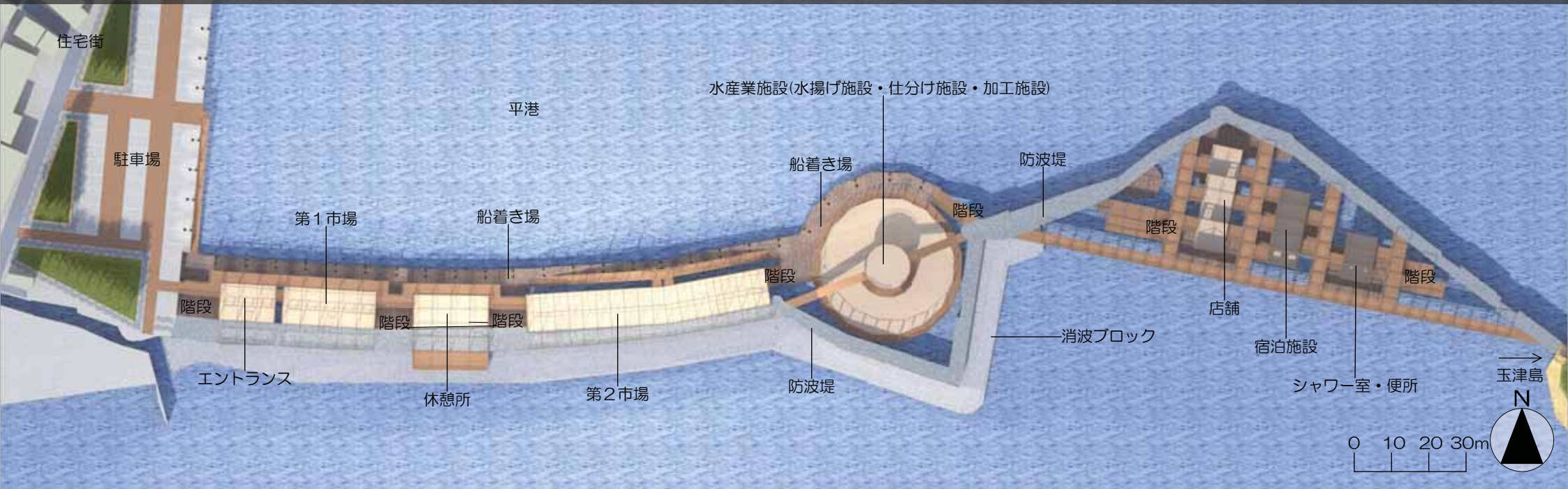
ROOF FLOOR PLAN (S=1/500)



SEA SURFACE ~ 5000 FLOOR PLAN (S=1/500)



GROUND FLOOR PLAN (S=1/500)



CURRENT (S=1/500)



GROUND FLOOR PLAN (S=1/500)



2F FLOOR PLAN (S=1/500)



ROOF FLOOR PLAN (S=1/500)

